

より安全にアクセスできるサイトを目指し フィッシング詐欺対策ソリューションを導入。



導入企業

株式会社ジェーシービー

- 設立: 1961年1月
- 資本金: 66億1610万円
- 従業員数: 2337名
(2005年3月末日現在)
- 本社所在地:
東京都港区南青山5-1-22
青山ライズスクエア
- 事業内容:
クレジットカード業務、クレジットカード
業務に関する各種受託業務、融資業務、
信用保証業務、集金代行業務、ギフトカー
ドの発行・販売業務

導入概要

- 導入ソフトウェア
フィッシング詐欺対策ソリューション:
PhishWall Server (セキュアブレイン)
- サイト規模
全体で約2000ページ、
月間アクセス約6000万ページビュー
- プロジェクト期間
約1カ月間 (2005年12月)



クレジットカード業界大手の株式会社ジェーシービーは、フィッシング詐欺による被害から顧客を守り、ホームページに安心してアクセスできるようにするため、セキュアブレインのフィッシング詐欺対策ソリューション「PhishWall Server」を導入した。フィッシング対策のサービスを短時間でも停止させることのないよう、データベースサーバに無停止サーバを採用したのが同社のシステムの特徴だ。PhishWall Serverの導入や検証は順調に完了し、2006年1月から運用を開始している。この対策は「安心感」や「信頼感」によって、JCBのブランドイメージを向上させることになったと言えるだろう。

多様なサービスを使いやすく、 かつ安全に提供するサイト運営

大手クレジットカード会社の株式会社ジェーシービー (以下、JCB) では、オンラインでのカード入会から「JCBカードローン」の借り入れ申し込み、公共料金の支払い申し込み、カード利用明細の照会、ポイントの照会や交換、支払い方法の変更など、インターネット上で様々なサービスを提供し、顧客の利便性を高めている。現在ではホームページ全体で月間約6000万ページビューと、金融系サイトの中でもトップクラスのアクセスを誇る。またインターネット上の登録制サービス「MyJCB」の利用者も2006年3月末時点で230万人を数える。その一方で、インターネットには日々新たな脅威が登場しているため、顧客の不安を解消していく取り組みも欠かせない。JCBでは、従来からサービスの種類だけでなく、使いやすさや分かりやすさを重視したサイト作りを心掛けてきたが、それだけでなく、セキュリティを高め、利用者が安心してアクセスできるような環境の構築にも取り組んでいる。その一環として、2005年1月のリニューアルでは、ウイルスや不正アクセスを防止するセキュリティサービスを導入している。

顧客の不安を払拭し、 安心というブランドイメージ向上を

近年になって、巧妙に利用者の心理につけ込んで偽のサイトにアクセスさせ、クレジットカード

の番号やオンラインバンキングのログイン情報などを盗み取るフィッシング (Phishing) 詐欺が多発している。フィッシング詐欺は金融業のインターネットサービスやオンラインショッピングなど、金銭のやり取りが発生するサイトを対象に行われることが多いため、業界各社はその対策を迫られている状況だ。

フィッシング詐欺に対する顧客の不安が高まっていることを受け、JCBではいち早く対策を講じるべく、2005年3月頃から本格的な検討を開始した。

「幸いなことにJCBのお客様がフィッシングによる被害に遭われたという事態は今のところ確認されていません。ですが、お客様の不安感を払拭する必要があったのです。実際、お客様からは『本当にJCBのホームページであるかどうか確認できる手段がほしい』といった要望もいただけています。お客様に安心してお使いいただけるよう、フィッシング詐欺対策に乗り出したのです」と、JCBマーケティング本部 チャンネル統括部 インターネット統括グループ 係長の岩橋大輔氏は言う。

クレジットカードのビジネスにおいては、ブランドイメージが重要な意味を持つ。安心して使えるインターネットサービスを提供することは、そのブランドイメージ向上にもつながるというわけだ。

SecureBrain PhishWallとは

PhishWallは、顧客が接続したホームページが本物であるかどうかをチェックして、その安全性を顧客のブラウザ上に表示するシステムです。

企業がPhishWall Serverを導入すると、自社のWebサーバの安全性を顧客のブラウザ上に「緑」のシグナルで表示することができ、顧客は一目でそのホームページが本物だと分かり、安心してインターネットを利用できます。

自社のWebサーバが「本物」であることを顧客に対して証明でき、信頼を高めることができる画期的なフィッシング詐欺対策です。

SecureBrain® PhishWall® Server



PhishWall 対応のWebサーバ

SecureBrain® PhishWall®

PhishWall 対応のホームページにアクセスすると
ツールバーに「緑」のシグナルを表示



ユーザ

ユーザの利便性を考慮して、
PhishWall Server を選択

JCBシステム部 顧客チャネルシステムグループ
担当 部長代理の原田明比古氏は、次のように言う。

「Webのセキュリティに関して、絶対ということはありません。セキュリティツールさえ詐欺されないとも限らないのです。フィッシング詐欺に対しては、既存のセキュリティサービスだけではカバーしきれませんでしたから、早急に、より積極的なフィッシング詐欺対策を施す必要があったのです」
こうして、JCBではフィッシング対策に的を絞った対策を施すべく検討を開始した。フィッシング詐欺対策としては、アクセスしているサイトが正当



システム部
顧客チャネルシステムグループ担当
部長代理 原田 明比古氏

であるかを簡単に、しかもセキュアに判断するシステムが有効だ。本物のサイトであることをユーザが把握できれば、フィッシング詐欺で用いられる偽のサイトを回避することができ、被害を防げる。サイト認証のシステムはすでに数社から提供されており、ベンダーによって実装方法やサービス提供ポリシーなどの違いがある。JCBでは、半年ほどの期間をかけて、3つのツールを比較検討したという。

「お客様の視点に立って、開発用の環境に導入し、実際に試して検討した結果、セキュアブレインの『PhishWall Server』を採用することに決めました。クライアントがブラウザのプラグインとして動作するためお客様にとって違和感が少ないことや、他社よりも認証が強固であること、またベンダーとしてのセキュアブレインの信頼感が高いこと、などがその理由です」(原田氏)

PhishWall Serverのサービスを、
止めないよう無停止サーバで構築

JCBホームページへのPhishWall Server導入は、セキュアブレインとCSKシステムズが共同で行った。当初の提案では、ハードウェア障害などへの対策として、フロントエンドのアプリケー

ションサーバを冗長構成、バックエンドのデータベースサーバをクラスタリング構成とする内容だった。しかし、データベースサーバの一方が故障した際の引き継ぎ時にわずかながらサービス停止時間が生じることから、クラスタリングでなく、日本ストラタステクノロジーの無停止サーバ「ftServer 4300」で構築することにしたという。そこには、原田氏のサービスに対するこだわりがあった。

「データベースサーバ部分の設計変更に伴い、ネットワーク設計やテストの労力がかかりましたが、無停止サーバの採用によって、クラスタ引き継ぎ時に生じる1~2分のサービス停止をなくすることができます。PhishWall Serverのサービスが停止してもJCBホームページのサービスそのものに影響はありませんが、クライアント側のシグナル表示が途絶えてしまい、お客様に余計な不安を与える可能性があります。それをできるだけ避けたいと考えたのです」(原田氏)

PhishWall Serverのシステム構築作業そのものは2006年1月上旬から中旬にかけて行われた。「かなりの短期間です。予想以上に手離れの良いシステムですね」と原田氏は評価する。PhishWall Serverが導入されたのはJCBのホームページ全体だ。システムの動作検証は、その全てを対象として行われた。その数は、様々なフォームの入力画面や入力後の確認画面などを含め、合計で約2000ページにのぼるという。検証作業は、岩橋氏が中心となって行った。全ページのリストを作って、実際にクライアントのシグナルが表示するかどうか、一つひとつ手作業で確認していったという。

PhishWall Serverの動作に問題がないことを確認した上で、JCBでは2006年1月31日から顧客に対しフィッシング詐欺対策サービスをスタートした。

導入後の稼働にもトラブルなし、
ユーザの反応も良好

導入後も、PhishWall Serverのシステムに大きなトラブルはなく、安定した稼働が続いている。「特に、フロントエンドのサーバに関しては何のトラブルもありませんね。また、システム負荷に関しては、今後のアクセス増加を見込んだ上で、少なく

とも2008年度中に対応できると試算されています」と原田氏は言う。

また、PhishWall Serverに対するユーザの反応も良好のようだ。岩橋氏は次のように言う。「PhishWall Serverのユーザ数を具体的に把握することはできませんが、クライアントのインストール用画面には毎日約8000ページビューというアクセスがあり、お客様の関心の高さが伺えます。PhishWall Serverは安心して使えるだけでなく、分かりやすく、お客様にも使いやすいツールだと思います。特に、ブラウザと一体化してシグナルを表示してくれる点がいいですね」

将来に渡るセキュリティ維持のため、
最新動向の把握を重視

一方、PhishWall Serverに関して、原田氏は「現状ではFirefoxやMacintoshなどに対応していませんので、対応ブラウザの拡充をお願いしたいですね。また、さらなる確認ロジックの精度向上にも期待しています」と要望を語っている。また、岩橋氏は、「PhishWall Serverの選定理由でもある『将来性』にこそ期待しています」と言う。「PhishWall Serverは、第三者によるサイト認証を行っているため、将来的にも有効なフィッシング詐欺対策と言えるでしょう。この技術そのものは、陳腐化するものではないと思っています」(岩橋氏)

そして、原田氏も岩橋氏も、セキュリティのさらなる向上のためには、最新動向を把握しておくことが



マーケティング本部 チャンネル統括部
インターネット統括グループ
係長 岩橋 大輔氏

が不可欠だとしている。

「セキュリティは継続的な対応が重要です。今後、また新たな脅威が登場し、それが既存のセキュリティサービスやPhishWall Serverでもカバーしきれないものであれば、随時対策を行います。そのためには、Webのセキュリティ動向を常に把握しておく必要がありますので、セキュアブレインにはそういった情報も期待しています」(原田氏)

株式会社セキュアブレインとは

株式会社セキュアブレインは、成田明彦(前シマンテック社長)を核にインターネットセキュリティ業界で経験を重ねたスペシャリストが参画して設立されました。私たちは独自のセキュリティシステムとソフトウェアを日本から世界に向けて発信してまいります。

事業内容

1. インターネットにおけるセキュリティシステムの構築
2. 「オンライン詐欺」に関連する防御ソリューションの開発・販売・サービスの提供
3. インターネットセキュリティに関する情報の提供および情報処理サービス
4. インターネットセキュリティに関する人材の育成・および教育
5. コンサルティング業務

株式会社セキュアブレイン

<http://www.securebrain.co.jp/>

〒102-0094

東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル 7F

TEL.03-3234-3001